JTB旅ホ連特集

中部 支部連合会

会長　小田與之彦

館の前で

日本の旬「北陸」を復興につなげる

元日に中部域内の石川県で発生した能登半島地震に対し、JTBや旅ホ連、そして関係各位より物心両面にわたり多大なるお見舞いやご支援をいただいていることに心より感謝申し上げたい。輪島や和倉温泉をはじめとする能登半島の観光地はまだ再開の見通しが立たず長期戦を余儀なくされるが、諦めずに取り組む。

その一方、3月16日に金沢から福井県敦賀まで供用開始となった北陸新幹線の延伸に合わせ、「つながる北陸」をテーマに日本の旬「北陸」が開催されている。この成功を地震からの復興につなげるべく関係者が一丸となって取り組んでいる。上期に北陸で日本の旬を実施するのは初の取り組みであり、「年間を通じて売れる北陸」づくりの起点となることを期待したい。

同じく3月16日に全面開業のジブリパークは、JTBはあらゆる面で優先的な販売が可能であり、その優位性を生かし、インバウンド、国内旅行の両面での活性化に結び付けたい。また現在開催中の浜名湖花博2024をはじめ、中部域内には旅行需要を喚起するイベントが数多く開催されるため、これらを生かし宿泊増売に結び付けたい。

またフィンランド航空がセントレアとヘルシンキを結ぶ直行便を週2便で再開し、久しぶりに中部と欧州が直接結ばれる。これも明るい話題として活用していきたい。

昨年より運用開始となった新客室管理システムの有効活用は、本年の重要な課題だ。JTBの英断によりフレキシブルな客室在庫の管理が可能となった。企画委員会で議論に携わる機会をいただいており、旅ホ連会員各位のご理解とご協力をいただき、宿泊増売の実現とWin－Winの関係構築を実現したい。

本年はJTBの中期経営計画において次の「飛躍」につなげる確実な成長の1年と位置付けられており、旅ホ連がパートナーとしての役割をしっかりと果たしたい。

九州 支部連合会

会長　冨森信作

館の前で

各委員会を活発化

波乱含みの年が終わった後も容赦なく押し寄せる物価高騰の波、公共料金高騰の波、こんな波ではとても波に乗れない現状が続く。一方、インバウンドや国内旅行の回復とうれしい波も来ている。冷水と熱湯の波を交互に受けているがごとくで波が乱れて「波乱」とはよく言ったものだ。そして思い出した言葉が「うまくいっている時は成功。うまくいっていない時は成長」だ。このような状況だからこそ、どんな時でも前に進んでいる実感が必要だ。

このような中、九州支部連合会は、JTBとのさらなる連携のもと、各委員会を活発化していく。未来委員会では、ホテル部会との連携のもと、九州域内宿泊増売キャンペーンへの取り組みや学生による九州ビジネスコンテストへの参画と連携を充実する。インバウンド委員会は、九州観光機構との連携のもと、アドベンチャーツーリズムの深掘りと需要の取り込みを図る。

組織強化人材育成委員会は、検定や共済のさらなる推進と人手不足対策をJTBと共に実施する。さらに関連組織の観光DX委員会では、ビッグデータやAIの研究を推進し活用に向けた道筋をつけたい。これら委員会活動ではJTBの協力体制と組織力が絶大な力を発揮してきた。

ただ最近、足元への注意の必要性を感じる。それは、従業者の満足度向上に向けた社内福利厚生制度や就労環境の改善だ。これらは離職者対策や企業の人材育成や永続性にもつながるため、ぜひ旅ホ連共済や旅館経営人財育成アカデミー制度の活用をお願いしたい。

そのような時耳にした言葉が、思いやり算だ。＋は助け合う。－は引き受ける。×は声を掛け合う。÷は、いたわるだ。そしてもう一つ「不満は人の足を引っ張り、感謝は人の手を引っ張る」だ。

JTBと共に会員への感謝と思いやりで本年度を乗りきりたい。

西日本 支部連合会

会長　岸本一郎

長浜観光PRキャラクター「ひでよしくん」と

「おもろい西日本」をアピール

まずは、能登半島地震により犠牲となられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、被災された皆さま、ご家族や関係者の皆さまに心よりお見舞い申し上げたい。

西日本支部連合会としても北陸方面への持出会議や研修旅行への支援を事業として実施し、微力ながら被災地の復興に向けた応援を継続的に行いたいと考えている。

また地震や天候不順、感染症などの脅威が想定外とは決して言えない状況下で「危機管理セミナー」の実施等にも取り組んでいく。

一方、西日本支部連合会管内では今年度下期に「日本の旬　京都・奈良・滋賀」、来年には「大阪・関西万博」などが相次ぐ。こうしたビッグイベントを宿泊増売につなげ、一過性ではなくJTBとともに持続可能なツーリズムとして確立しなければならない。

そのため西日本支部連合会では、昨年試験的に行ったJTB法人営業担当者との商談会である「関西拡大キャラバン」を本格化することや、JTB社員との関係性を深化する事業を積極的に推進し、JTB各支店との協働による着地コンテンツを開発、販促支援に取り組む。

もちろん、今年は史上最多の勢いで推移しているインバウンド需要についても、ファムトリップやGMTとの商談会等を通じて、西日本エリア全域にインバウンドが訪れる機運を醸成していくよう努めたい。

さらに、私たち宿泊業はもちろんツーリズム産業全体として大きな課題となっている人財確保・育成についてもJTBグループとの事業連携等を通じて目に見える実利を示したいと考えている。

今年は、JTBとともに「創客」の仕組みづくりを推進する試金石の1年と捉え、西日本支部連合会会員ならびにエリア内のJTBグループの皆さんとともに「おもろい西日本」をアピールしていく所存だ。

沖縄 支部連合会

会長　平良朝敬

沖縄支部連合会創立50周年記念式典

旅ホ連活動の四つの柱を強力に推進

23年度は沖縄の国内入域観光客数が前年度10・6%増の726万9千人と過去最高となった。沖縄JTBでも宿泊券販売目標を6年ぶりに達成し、コロナ禍からの夜明けを迎えた沖縄観光の一方で、訪日インバウンドにおいてはコロナ以前までの回復は見られていない。マーケット動向でも海外需要が増えてきており、潮目の変化も感じる。

そのような環境の変化を踏まえて、24年度は「JTBとの戦略的パートナーシップによる宿泊増売と会員経営基盤強化」のテーマのもとにさらなる連携を深め、旅ホ連活動の四つの柱を軸に強力に推進していきたい。

特に今後の宿泊増売の鍵となる訪日インバウンドの取り組みでは、昨年度「インバウンド部会」を立ち上げ、「杜の賑（にぎわ）い沖縄」鑑賞を含めたFAMトリップを実施。24年度は、引き続き沖縄観光コンベンションビューローやGMT、Inbound TriPとの連携も図り、誘致策を検討する。

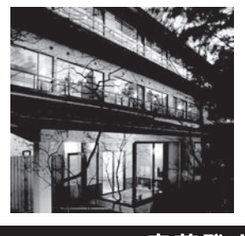
宿泊増売の一環として、受け入れ研修についても積極的に行う。すでに今年度は団体3コース、個人2コースが決定。併せて、先日、エリア長広域リテール統括MTGの沖縄開催を誘致。旅ホ連会員との交流会も実施した。店舗での販売促進施策の展開が決定したこともあり、今後の沖縄販売に弾みをつけたい。

旅ホ連活動における地域の持続的な発展を目指し昨年度発足した「サステナブル勉強会」では、SDGsに関するセミナーや先進事例の視察を実施。今年度は、「サステナブル部会」として、地域の活動にも目を向け、観光振興の視点も捉えたい。さらに、沖縄を四つのエリアに分けて、課題解決、素材発掘、販促強化にも取り組む。

25年には本島北部に注目のテーマパーク「JUNGLIA」の開業。下期には「日本の旬　沖縄」が決定。「未来からいまを創る」1年として貪欲にチャレンジしたい。

北陸 富山　日本の名湯　金太郎温泉
TEL 0765-24-1220
〒937-0013 富山県魚津市天神野新6000
https://www.kintarouonsen.co.jp
当館まで約10分　北陸新幹線「黒部宇奈月温泉駅」当館シャトルバス毎日運行中！
日帰り温泉 カルナの館　TEL 0765-24-1221

日光の社寺　世界遺産登録25周年

日光東照宮に一番近い宿
ホテル清晃苑
TEL:0288-53-5555FAX:0288-53-5554


旬の懐石と1ランク上のおもてなし
日光千姫物語
TEL:0288-54-1010/FAX:0288-54-0557

懐かしき大正ロマンの宿
ホテル春茂登
TEL:0288-54-1133/FAX:0288-53-3509

仙台伊達公別邸跡の宿
日光東観荘
TEL:0288-54-0611/FAX:0288-53-3914

春茂登ホテルグループ　http://www.hotel-harumoto.com/hhg/

上諏訪
RAKO 華乃井ホテル

浜の湯

下諏訪
聴泉閣 かめや

門前ひろば 食祭館

諏訪湖リゾート株式会社
上諏訪温泉　RAKO 華乃井ホテル　浜の湯
下諏訪　聴泉閣 かめや　門前ひろば 食祭館
総合予約センター　☎0266-54-0333
〒392-0022　長野県諏訪市高島2-1200-3
http://www.suwako-resort.co.jp/